

学習会(子ども会)だより 4月号
MY SKY 第1号
 マイ スカイ

1995年4月19日水曜日発行(毎月1回定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

板野中学校の皆さん、進級、入学おめでとう！いよいよ新しい学校生活が始まりましたね。新しい学級はどうですか？楽しくなりそうですか？

昨年まで阿部先生が作り、まとめていたこの「MY SKY」を、今年からは私、吉成が編集していきますので、よろしくお願いします。本年度も昨年度に引き続き、その時々にあった行事などについて詳しく記録し、学習会・同和教育を中心においたまとめをしていきたいと思っています。しっかり読んでください。



いたのちゅうがっこうがくしゅうかい こ かい
 ◎板野中学校学習会(子ども会)より

さて、どんな時も最初の出会いは新鮮であり、緊張感があり、何かときめくものがあるものです。しかもその出会いが、互いに興味あるものであればなおさらです。

「この人は私のことをどう思ってるのだろう……？」

「あの人は部落のことについてどんな思いがあるのだろう……？」

この思いは、みんなが心に抱いているものではないでしょうか。その思いを出し合うことによって初めて、一つの峠を乗り越えられるのだと思います。相手に思いを伝える方法はいろいろあります。文にしたため合う。絵として伝え合う。詩にして伝え合う。体全体で表現し合う。そして、語り合う……。今私たちがしようとしていることは、この「語り合う」ことだと思っています。その「語り合う」最初の出会いが、学級であれば「学級開き」。家庭であれば「家庭訪問」。そして、学習会であれば「開講式」です。その中で、「互いの胸の内を探り合う」ことよりも、まず「自分を語る」こと。その中から「人に求める」ことではなく「自分を見つめ、高める」ことに気づいていくのだと思います。そんな「自分を語る」第一歩を、みんなで歩んでいきましょう。



がくしゅうかい はじ あ
 学習会を始めるに当たって

学習会主任 西條 仁

1995年度の学校も新入生を迎えスタートしました。今年度の学習会も少し遅れて新しい

1年生の仲間を迎えて始まります。何事も最初が肝心で心^{かんじん} 構え^{こころがま}をしっかりと持って頑張っ
て欲しいと思います。

学習会が始まった当時のことを思い出しますと、きびしい差別と偏見^{へんけん}によって、教育や
就^{しゅうしよく}職^{しやく}の機会均等^{きかいきんとう}が憲法には保障されているが、現実には保障されていないために「学力
の遅れ」「基本的な生活習慣の不十分さ」等、いろいろと問題になり、運動団体や保護者、
たちあがった教師たちの切実な願いから、本校でも1973年度より学習会が実施^{じっし}されたと聞
いています。学習会に参加した人の中で、部落差別解消にむけてのリーダーも多数育^{たすう}って
きています。高校の進学率^{しんがくりつ}も向上してきました。

学習会は、部落問題に積極的に取り組む力を養^{やしな}い、確かな学力を身につけるという目的
で実施されています。問題解決を担^{にな}う子ども像として、次のようにとらえています。

- ア たくましくしなやかな心身と豊かな感性をもつ子ども
- イ 確かな学力を身につけ、人権感覚、人権思想をもつ子ども
- ウ 論理的思考力^{ろんりてきしこうりよく}とねばり強い行動力をもつ子ども
- エ 集団の中で、仲間とともに生きていく子ども

上記の子ども像に近づくように頑張ってください。生活面でもお互いに明るくあいさつが
でき、信頼感^{しんらいかん}や連帯感^{れんたいかん}を深め、交通安全にも気をつけて事故のないようにして欲しいと思
います。学習会場の整理整頓^{せいりせいとん}をきちんとして、気持ちの良い教室で学習できるように気を
配ってください。



つながりを求めて

同和教育主事 阿部 憲作

3年間同和教育担当を務^{つと}め、今年から同和教育主事となりました。「学校の同和教育を
徹^{てつてい}底していくとともに、学習会を充^{じゅうじつ}実させていくんだ」という気持ちと「はたして本当に
十分なことができるのだろうか」という不安^{ふくざつ}が複雑に入り交^まじっているのが正^{しょうじき}直な今の気
持ちです。しかし「生徒のみなさんや保護者のみなさん、他の先生方と共に歩いていくん
だ」という気持ちが、私の力みや不安を自然と取り除いてくれます。ただ、人に甘えては
なりません。自分自身の発言や行動^{きび}を厳しく見つめ、自分自身を人間として成長させなが
ら教育に、学習会に取り組んでいこうと思っています。どうかよろしくお願いします。

さて、新入生のみなさん入学おめでとうございます。2・3年生のみなさん進級おめで
とうございます。新しい学校で新しい学年で新しい学級で新しい仲間や先生との出会いが

あり、すべてが新たに動き始めました。学校生活の中で最も重^{じゅうよう}要な位置^しを占める学級では、仲間との初めての出会いがあり、担任の先生がこれから始まる一年間をどういうふうに生きたいか、どんな学級にしたいかなどさまざまな思いを込めて語られたと思います。このときが、本当の学校生活のスタートであり、学級生活のスタートです。学校で過ごす時間は、誰にとっても一日のほとんどを占める大切なものです。その中でも学級の仲間や先生との関係が毎日の生活を生き生きさせたり、重^{おもくろ}苦しいものにさせたりします。仲間や先生との関係をどう、より良くさせていくか。それは毎日の生活の中でわき起こった喜びや悲しみ、怒りなどを互いに分かち合い、本当の気持ちが言い合える関係であるかどうかだと思います。そんな関係ができたとき、誰もがキラキラと輝いていくのだと思います。

部落問題学習は部落差別を中心にして、さまざまな差別問題について話し合いがなされていきます。そこで学習の中心になるのは生徒のみなさんです。そして自分の本当の思いが語れるかどうか、本当の仲間になれるかにつながっていきます。また、部落問題学習は部落差別をなくすためだけのものでなく、部落差別の問題を学習することを通して、差別のしくみや、社会の中で差別がどう機能^{きこう}しているのかを学んでいきます。差別は人と人との間にさまざまな壁を作ってきました。その壁を乗り越え、本当の人間らしい関係をつくっていくために部落問題学習をしていきます。学級で、学年で、全校で部落差別の問題から学んだことを語り合う学習。それは、真^{しん}の意味で誰もが人間として輝いていく学習です。思いを語ることが人間を輝かせていくのです。

もうすぐ開^{かいこうしき}講式を迎え、いよいよ学習会も始まろうとしています。学習会に対する思いはさまざまだと思いますが、私たちは全員が胸を張って参加してほしいと願っています。生徒のみなさんや保護者の方の中には、

「差別される側^{がわ}だけがなぜ学習会でがんばらないかんのですか？」

「部落である証^{しょうこ}拠はどこにあるのですか？」

「学習会に行って本当に力がつくのですか？」

「学習会のように特別なことをするから差別が残るんです」

といった思いが少なからずあると思います。私たちはそういった意見も聞かせていただき、学習会のあり方を正していくとともに、話し合うことや互いに学習し合う中から学習会の参加について、今後理解していただければと願っています。学習会は私たちの先人^{せんじん}が部落差別に怒りをもち、その怒りを解放運動に変えながら、運動によって勝ち取った誇り得るものです。その誇り得る生き方を学習する場が学習会だと思います。

まず、開講式で会場に足を運んでください。保護者の方にもお願いします。そして、たくさんの意見や思いを聞かせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

以下の文章は毎年一年間の終わりに本校の部落問題学習の^{じっせん きろく}実践記録としてまとめている「峠を越えて」という本の中で私が書いた一部分です。自分を語る場が少ないのでこれを読んでいただいて、私のことを少しでも理解していただければと思います。また、「峠を越えて」は生徒のみなさんや他の先生方の思いがいっぱいつまっており、読めば熱い思いがこみ上げてくる本です。^か貸し出しをしていますので、ご希望の方があればいつでもご連絡ください。

……部落問題に取り組むといろんな差別構造^{さべつこうぞう}が見えてきた。私の生^おい立ちの中にも当然深い関係があったのだと今になって思えてくる。さらに、差別構造が見えてくる中で、今何をしなければならないかが見えてくる。

母親は農業をかたわらに^{いとな}営みながら、パートでどんなことでもしながら働いた。父親も会社勤め^{かいしゃづと}の前後に、朝早くから夜遅くまで農業を営んだ。私たち兄弟4人と祖父母を養い、生活は汲々だったに違いない。そんな中、「日曜は遊園地に遊びに行ってきた」「ラジカセを買った」など、友達が楽しそうに話をしているのが羨ましかった。それがもとで、事あればその友達に、時には暴力までふるっていた。実際に遊びに連れていってくれた記憶は数回もない。^{おきな}幼い頃夏休みに初めて海に行った。うれしくて楽しくてしかたなかったのであろう。次の日も「海に連れていって」と父親に泣き叫んだ。なんとかその日の仕事をおいて父親は連れていってくれたが、その日の海は前日に行った後、台風接近^{おおあ}で大荒れだったせいか、貝の死骸^{しがい}が散乱^{さんらん}していて泳ぐどころではなかった。それでも数時間は遊んだ。父親は私を怒りもせず、家に帰ると忙しそうに足早^{あしはや}に働きに出かけた。その思い出が今も胸を痛ませる。

母親は^{ひんこん}貧困であまり学校教育を受けられなかったせいか、私たち兄弟に対して十分な教育を受けさせてやろうという思いが強かった。親がドロドロになって働く姿からそんな思いが十分伝わってきた。少ないながらも^{いとな}営んできた農業であるが、災害や^{さいがい}作物^{さくもつ}のできによって常に変わる不安定なわずかばかりの収^{しゅうりゅう}入。父親は小さい酒会社の運転手。母親は縫製^{ほうせい}から土建業^{どけんぎょう}など転々^{てんてん}と職を変わりながらも必死で働いた。社会の厳しさを知っていたのだろう。口癖^{くちくせ}のように「学歴がものをいう社会なんだ」と言っていたような気がする。「お前たちにはどんなことがあっても大学に行かせてやる」そう言って、身^みを粉^{こな}にしながら働いた。

それに応えて兄たちは勉強に頑張っていた。家に帰ってもみんなそれぞれに勉強に精を出していた。当然兄弟の会話など少なくなっていく。そんな中、兄弟の一人が病気を患い学校を長期間休んだことがあった。もちろん成績も下がっていく。そのあせりと病気が完治しないストレスが親や兄弟にぶつけられ、それがもとで喧嘩となっていく。日頃からあまり会話のない兄弟であるがゆえに、いざ喧嘩となるとそれはすさまじい。その後ますますエスカレートし、ますます家庭内はギスギスしていく。家に帰っても親はいない、兄弟との会話もない中、私も精神的に病んでいく。過食症を何年間も患うことになり、それを誰にも見つからないようにしていた私の行為がますます家族を分断していったように思う。この頃から私は二面性を持つようになる。学校や友達の前では何食わぬ顔をして平静を装い、家に帰ると過食症の行為を通して、自分を落ち着かせてきた。

そうした中、自分は誰であるのか、本当の自分はどこにいるのか分からないほどになっていた。親の苦労や兄たちの思いなど知ることもなく、私は早くこの家から去ること、いや、その時の自分から逃れることばかりを考えていたように思う。

教員になり部落問題に学んでいた当時、佐藤先生や石原先生がよく言われていた。「部落差別は部落の人たちだけを苦しめているのではないですよ。部落差別はすべての人間性を喪失させているのです。すべての人間が人間らしく生きることを奪っているのです」当時私はこの言葉の意味はよくわからなかったが、この言葉でそれまで自分を、家族を見失ってきた本当の人間の生き方を取り戻せるような気持ちになった。ここに私の人間として目覚める原点があるように、今思う。

最近のことであるが、母親がある日ボツリと独り言のように言った。「私たちの教育がまちがっていた。人間はもっと大切にしなければならないものがあるなあ」と。「あなたたち(両親)は私たちのことを思って身を粉にして働いた。その人生は一体何だったのだ。ここまであなたたちを追い込んだものは何なのだ!!」私は何ともやるせない気持ちと親に対して申し訳ない気持ちでいっぱいになった。「そんなことないよみなそれぞれに精一杯生きているじゃないか」と母に言葉を返したが、「今、本当の幸せが見えてきたんじゃないか。『もう遅い』なんてことないのだから」と心の中でつぶやいていた。と同時に、叶うはずはないのだが親たちの私たちに費やした時間が戻ってきてほしいと思っていた。

人は二度は生きられない。過ぎた時間も決して戻ることはない。今、峠を越えて..

……。』

「1994年度峠を越えて－全体学習・輝ける日々－『今思うこと 阿部憲作』」より



わたし 私の原い

学習会専任指導員 乾 広道

人は自分にないものを欲^ほしがり、努力します。また自分の嫌^{きら}いなところをどうにかして好きになれるように、直^{なお}せるように頑^{がん}張^ばろうとします。私もそういう人間の一人です。完璧^{かんぺき}な人なんかこの世にはいません。しかし誰もが(理想とするところの)自分自身にたどり着^きこうとして頑^{がん}張^ばっていることがすんなりとわかりかけている自分を感じます。以前^{いぜん}よりもずっと強^{つよ}いです。

日々の暮らしの中でそんなに大きな人間でない自分を無理^{むり}に背^せ伸^のびさせて生きることはしんどいです。ものすごく疲^{つか}れます。しかしそのしんどさに負けるのはもっと嫌^{きら}なことと思います。しんどさに打ち勝^なって自分の納^な得^{とく}のゆくような時間を、一日を過ごせることの方が魅^み力^{りよくてき}的^{てき}だと思^{おも}いませんか？私はこんなことをいつも思っているのにしんどさに負^ひけて嫌^{いや}な方^{ほう}、嫌^{いや}な方^{ほう}に流^{なが}れていってしまうことが多いです。「いっそ『しんどい！やめた！』と(自分に)降^{こう}参^{さん}した方が楽^{らく}かな」と感じたりもします。そんな中でも「やっぱり降^{こう}参^{さん}しなくてよかった」と感じる一瞬^{いつしん}が嬉^{うれ}しいから、まだ、そしてこれからもあきらめることなくご飯を食^くべて、寝^ねて、朝^{あさ}を迎^{むか}えるわけです。

話はかわって、去年も書いたことなのですが、私の好きな言葉は「やらなければできない」です。「やればできる」ではありません。この文を読んでいる人はどっちが好きですか？それではいっしょに「自分が好きな自分」になれるように、ご飯を食^くべて、寝^ねて、朝^{あさ}を迎^{むか}えましょう。



がくしゅうかい 学習会をはじめるにあたって

学習会専任指導員 山下 博志

昨年に引き続き本年度も学習会専任指導員として板野中学校に勤務^{きんむ}することになりました。学習会での教科学習では英語と国語を主に担当し、部落問題学習にもみんなと一^{いっしょ}緒^{しょ}に取り組んでいきます。また、学校では1Eの女子の体育を担当させていただきます。

4月になり本年度も学習会専任指導員としてスタートしました。これからはじまる学校生活や学習会に胸^{むね}を膨^{ふく}らませています。1年生のみなさんとは3月の交流会に2、3年生

の先輩^{せんぱい}とともに参加させてもらい、中学校の学習会についての疑問点などいろいろと意見を出してもらい、そのことについて先輩たちが答えながらの話し合いをしました。この時は自己紹介^{じこしょうかい}をただで話をすることができませんでした。学校で学習会で話をしたいと思っています。ですから学習会や学校でも気軽に^{きがる}話しかけてきて下さい。

学習会専任指導員として2年目を迎えるわけですが、実は昨年、学習会専任指導員として勤務するまで学習会の存在すら知りませんでした。学習会がどのようなものであるかが分からないままスタートすることになったのでものすごく不安でした。しかし、子どもたちや多くの先生方に支えられ頑張^{がんば}ってこれたように思います。板野中学校に勤務し、部落問題学習^かに関わ^かっていくなかで、自分が中学生だった頃には気づかなかったことがいろいろみえてきました。まだまだ学んでいかなければならないことがたくさんあると思います。また、保護者の皆様をはじめ多くの方々のご協力をいただきながら、子どもたちと共に頑張りたいと思いますので、ご指導やご協力をよろしくお願いします。

★ ★ ★ ★ ★

阿部先生の文章を読んでいると、私は胸^{むね}の締めつけられるような思いがします。

ある時、ある人が、ある人^{たず}に尋ねました。

「何^くの苦もなく幸せな人生を歩んでいる人には、この教育の大切さは分からないのではないのでしょうか？」

「……果たしてそんな人はいるのでしょうか。もしいるのだとすれば、その人はその不幸に気づいていないか、気づいていても目をそむけているだけなのではないのでしょうか。……みんな違いこそあれ、何かの痛みを持って生きているのだと思います。」

みんなが何かの痛みを持って生きている。そしてそれは、歳^{とし}が増せば増すほどに多くなっていく。そのことが人に言えれば、どんなに楽か……。自分の苦しみを多くの人と共有しながら生きていけるということが、どんなに自分の人生にとって大きなことか……。そして幸せなことか……。私たちはそんな生き方をしていきたいと願っているし、そのことが「普通」であるような社会にしていこうとしているのだと思います。自分の中にあるドロドロした差別意識に触れないのではなく、勇気をもって自分自身の差別意識と正面から向かい合い、勝負^{いど}を挑んでいくこと。そのことが、それまでの自分の人生観^{じんせいかん}を180度変えてくれるのだと思います。自分の欠点を隠^{かく}すのではなく、目をそらすのでもなく、しっかりと凝視^{ぎょうし}し、その中でいかに自分を鍛^{きた}え高めていくか。そのことを、部落問題学習は教えてくれました。今では「生きる」ことが楽しくて仕方ありません。実際は、確かに疲れもし

ます。しかし、ぼんやりしていた「自分の生きる目標」が、すごくはっきりしてきました。今はやりたいことがたくさんありすぎて、もっともっと時間がほしいくらいです。

つい先日、今まで3年間の私の学級づくりを記録した「いしづえ」(全304P)ができあがってきました。その時、母が言いました。

「お前は、本当に同和教育好きなんやなあ。けど、たとえば右手が同和教育だったら、左手は数学教育だということを忘れてはいけないよ……」

「何を言ってるんですか。左手が数学教育ならば、同和教育は体全身ですよ！」

母は「これは一本取られた！」という表情で笑っていました。こんな話ができるのも、いろんな峠を越えられたからだだと思います。私にも、^{おきな}幼い頃から優しく接し、教えてくれた父母との思い出があります。また、部落差別・同和教育に関わってなじり合いの喧嘩^{けんか}をしたこともあります。今となってはそんなことの全てが、私自身の^{いしづえ}礎^{いしづえ}となっています。

完成された人間は誰一人としていません。私自身も、ここに^{つづ}綴^{つづ}ってくれた先生方も、そして皆さんの学級担任の先生や皆さん自身もです。来年の3月までの勝負です。つまりこの1年間で勝負です。もっと言うと、より良い3学期を迎えるためには2学期が勝負です。2学期が充実するためには、この1学期の心^{こころがま}構^{むか}えが大切です。その1学期はもうすでに始まっています。^{なにごと}何事も初めが^{かんじん}肝心です。その気持ちで、一日一日を精一杯生き、キラキラ輝くことです。そんな毎日に、みんなでしていきませんか。共に頑張りましょう！

ところで、今日のあなたは輝いていましたか？



◎^{がくしゅうかい}学習会^こ(子ども会)^{かい}開講式^{かいこうしき}について

生徒の皆さんは、いろいろと用事もあるかもしれませんが、1番初めの大切な式なので、日程を^{ちようせい}調整して、遅れないように必ず参加してください。また、どうしても参加できないことがあらかじめ分かっている場合は、不参加の連絡を必ずしておいてください。みんな^{きそ}で誘い合わせ、多くの仲間ですたートを切りましょう。仲間は多ければ多いほど良いものです。私たち教職員も、皆さんと共に学習できることを心待ちにしています。

日程及び場所

4月26日(水)	板野南公会堂
4月27日(木)	板野町総合センター
4月28日(金)	郡頭教育集会所
5月1日(月)	板野東公会堂
5月2日(火)	川端教育集会所

式次第^{しきしだい}

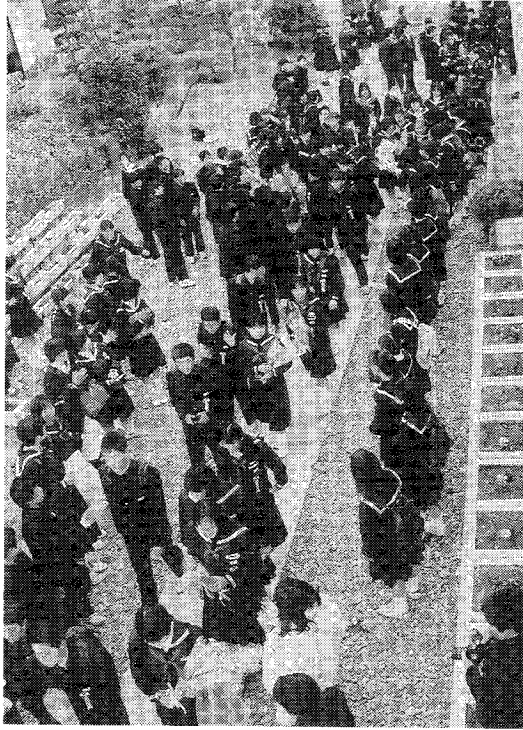
1. 開式の言葉
2. 自己紹介
3. 学校代表挨拶
4. 学習会の意義・目的について
5. 学習会での留意点について

6. 全員による語り合い

7. 閉式の言葉

※ 式後、保護者との懇親会^{こんしんかい}をもちたいと思いますので、よろしくお願いします。

※ 開講式は6:30に始まりますので、それ以前に着席できるようにしておいてください。



1995年度卒業式（3月13日）

